

Aライン:宿道* 約445m/全長 約750m
 ・中頭方西海道(宿道の一つであり、現在の国道に相当します。)

Cライン:脇道 約165m/全長 約230m
 ・宿道と喜友名グスクと喜友名集落をつなぐ道

Dライン:脇道 約140m/全長 約250m
 ・湧水へ向かう道(Aラインを補完する道)

Bライン:継続調査中

* 文化財は、公園・緑地内で保存整備を予定しています。

公園(緑地を含む)

「宿道*」は、尚巴志による琉球統一以後、首里王府を起点に整備された公道であり、税の貢納、物流などに使用されていました。江戸幕府による国絵図にも描かれています。



Aライン(新城地区)
 新城地区の宿道は、概ね公園内に保存されます。



宿道の景観
 礫敷き(道)と土手
 Aライン(新城地区)
 Aラインは宿道であり、路面の礫敷き・土留石・土手がみられます。また、新城地区には石切場など、多様な文化財があります。



アコウの大木
 Dライン
 Dラインは土手の縁を歩き、路面は土道となっています。また、湧水(ミーガー、バシガー)、アコウの大木が見られます。



シンバルガー間取り図
 シンバルガー
 宿道とシンバルガー(新城のウブガー) *継続調査中です。



Aライン(喜友名地区)
 Aラインは土手の縁を歩き、路面は石灰岩の礫敷きとなっています。



喜友名泉 石畳道(国指定範囲)
 石畳道(120m)も国指定文化財に含まれています。



喜友名集落(近世～)



Bライン
 新たに発見され調査中です。(現在、礫敷きの道)



Cライン
 ・Cラインは、Aラインと同様、土手のへりを歩き礫敷きとなっています。
 ・宿道と喜友名グスク(拝所)、喜友名集落をつなぐ道であり、地域の方には「グスクンダ」の愛称で親しまれ、戦前まで利用されていました。



喜友名グスク